

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

昭和三年八月刊行

第二卷 第二輯

目次

原報

- 光による膠質の生成(第一報) 銀膠質の生成.....堀場信吉 陳之霖.....49
- 銅膠質生成の新方法.....石井新次郎.....65

紹介

- 光化學の基礎法則.....市川禎治.....81
- 最近に於ける接觸々媒理論.....李泰圭.....96
- 五酸化窒素の分解に就て(一分子反應).....城野和三郎.....120
- 生物に對する光の作用.....古谷登.....137
- 膠質系の滲透壓.....馬場日出男.....161
- 流動性物質に對するX線的研究.....藤澤米次郎.....176
- 膠質粒子の生成及構造並に光學的異方性.....今堂健雄.....193

第二卷第三輯は昭和三年十一月發行の豫
定であります。

本誌に關する批評注意要求等は京都帝國
大學物理化學研究室内 市川禎治あてに
願ひます。

昭和三年八月十五日印

刷

(年三回刊行)
物理化學の進歩
第二卷第二輯
定價金壹圓五拾錢

昭和三年八月二十日發

行

編輯主幹

京都帝國大學物理化學研究室

堀 場 信 吉

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

發行者

佐 藤 正 叟

東京市京橋區弓町二十五番地

印刷者

高 橋 郁

發 行 所

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三四五六番
四三三三番

三協印刷株式會社印刷

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化学の進歩

年 三 回 刊 行

第一輯目次 (大正十五年十月刊行) 定價金壹圓五拾錢

化學反應の副射説。一次反應の機構に關する Roy の説に就て.....	理學博士 堀 場 信 吉
Dalton氏分壓の定律に對する違背に就て.....	四手井次太郎
興奮水銀分子による水素分子の活性化に就て.....	近 森 誠 一 郎
電氣放電による活性水素に就て特にその化學的動作に就て.....	市 川 禎 治
ニッケル、銅觸媒の存在に於ける水素の臨界電壓.....	李 泰 圭
アトムストラーレン.....	城 野 和 三 郎
鹽素及び水素の光化學結合に就て.....	市 川 禎 治

第二輯目次 (昭和二年三月刊行) 定價金壹圓參拾錢

鹽素及び水素の光化學結合に就て(第一報).....	{理學博士 堀 場 信 吉
特種の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張	市 川 禎 治
.....(第一報).....	{理學博士 堀 場 信 吉
界面電位に就いて.....	志 方 益 雄 三
最近の赤外スペクトルの研究.....	石 野 俊 夫
a-Particles による化學作用.....	陳 之 霖
強電解質論.....	理學博士 堀 場 信 吉

第三輯目次 (昭和二年七月刊行) 定價金壹圓五拾錢

簡單なる石英又は硝子製壓力指示計に就て.....	理學博士 堀 場 信 吉
濃厚水溶液の蒸氣壓測定.....	古 谷 登 雄
焼付及び鑷銀により反射回折格子を作る方法.....	今 堂 健 治
氣態反應速度論(衝突説).....	市 川 禎 治
赤外線吸收バンドスペクトル、最近の赤外線スペクトル.....	石 野 俊 夫
の研究(第二).....	古 谷 登 雄
過マンガン酸還元作用機轉に就て.....	城 野 和 三 郎
モレキュラーストラーレン.....	李 泰 圭
ラングミーアの觸媒理論.....	理學博士 堀 場 信 吉
光化學作用と生命.....	

第四輯目次 (昭和二年十二月刊行)

ポーラログラフに依る銅錯鹽の研究(第一報).....	農學博士志方益三
混合氣體の Dalton の分壓定律に對する化學的原因に基く逸背に就て(第二報).....	理學博士四手井次郎
鹽化水素—水蒸氣.....	理學博士堀場信吉
鹽化ナトリウム並に鹽化カリウムの蒸氣壓測定.....	馬場日出男
Langmuir 氏の觸媒理論(其二).....	李泰圭
ゾルの流動による異方性に就て.....	城野和三郎
コロイド粒子大さ決定に關する諸法.....	石井新次郎
興奮水銀原子による光化學感應に就て.....	梶木朝亮
酸化銅電極に對する Becquerel 効果の研究に就て.....	速水永夫
化學原子價に就て(講演).....	理學博士堀場信吉

第二卷第一輯目次 (昭和三年四月刊行)

樟腦の蒸氣壓測定(豫報).....	吉木晴一
三沃化砒素の蒸氣壓測定.....	理學博士堀場信亮
還元ニツケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(豫報).....	理學博士堀場泰吉
特殊の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張第一報.....	理學博士堀場信健
結晶水の結合狀態に對する分散度の影響に就て.....	萩原篤太郎
新量子論.....	山村松平
筋肉收縮と筋肉に依る化學的作業.....	古谷登
膠質系の平衡に就て.....	陳之霖

第二卷第二輯目次 (昭和三年八月刊行)

光による膠質の生成(第一報)・銀膠質の生成.....	理學博士堀場信吉
銅膠質生成の新方法.....	陳之霖
光化學の基礎法則.....	石井新次郎
最近に於ける接觸々媒理論.....	市川禎治
五酸化窒素の分解に就て(一分子反應).....	李泰圭
生物に對する光の作用.....	城野和三郎
膠質系の滲透壓.....	古谷登
流動性物質に對する X 線の研究.....	馬場日出男
膠質粒子の生成及構造並に光澤的異方性.....	藤澤米次郎
	今堂健雄

京都帝國大學教授 理學博士 園 正造先生著

高等代數學

上 卷
(群 論)

定 價 金 八 圓 送 料 金 二 十 七 錢

近世代數學の劃期的發達を招致したものは實に十九世紀末に現はれた群と體との理論である。かの方程式の可解性に關する疑問や或は希臘以來未解決の儘で殘されてゐた作圖問題等に對し明快な解決を與へたものは此の理論である。更に代數學を新な展望の下に開展せしめたものも亦此の理論である。實に群と體とは現代の代數學の根幹をなし今や正に數學の一部門を形成するに至つた。尙群と體とは數學の他の部門にあつても或は奥底に潜み或は表面に顯はれて重要な役目を演ずる、されば現代の數學を究めんとする者には勿論、また廣く數學の基礎的考察をなす者に取つても必要缺くべからざる概念である。而もこれに關する著述は我が國に於ては皆無である。著者はこれを遺憾として兩者を上下二卷に分ち世界に於ける近世代數學の發達を大觀し更に自らの創意を加へて本書を完成するに至つた。著者は一般讀者の爲に微細の點に立入らず努めて大綱を掲げてその本領を容易に理解せしめることに意を用ひてゐる。實に本書は近世代數學の發達とその趨勢とを一日の下に瞭然たらしめる好個の著述である。

自然科學研究叢書

第一編 近世高等代數學 定價金八圓

京都帝國大學教授 園 正造 著
理學博士

第二編 高等物理學概論 昭和四年二月發行

東北帝國大學教授 大久保準三 著
理學博士

第三編 動物發生學 昭和四年三月發行

九州帝國大學教授 大島 廣 著
理學博士

第四編 物質運動論と物理化學 昭和四年十月發行

京都帝國大學教授 堀場 信吉 著
理學博士

第五編 環 の 理 論 昭和四年五月發行

京都帝國大學教授 園 正造 著
理學博士

第六編 昭和四年十二月發行

京都帝國大學教授 喜多源逸 著
理學博士

最新刊

東北帝國大學教授 理學博士 大久保準三著

最新物理學講義

定價金六四五拾錢 送料金拾八錢

本書は新制度の中等教育物理學教授要目に基いて物理學一般の知識を平易に且つ系統的に詳述して其の概念を遺漏なく收得せしめると共に日常生活に於て屢遭遇する多くの事項をも加へ物理學の實際的運用に資せしめんことを期した。就中其の基礎的事實並に其の原則・法則の物理學的意義を詳説し其の根本的知識を理解せしめることに努めた。且つ物理學最近の發達をも述べ力めて新知識を知らしめると共に世界の物理學進歩の趨勢を明かにした。挿圖は物理學講義に極めて重要な地位を占めるものであるから力めて多數に之を採用し而も十分に意を用ひて直接實驗した實物寫眞を多く收め器械器具の如きも多く實物の寫眞を以てした。尙各種類の計算を多數採録し其の模範的解法を示し何人にも直に要領を會得せしめるやうに心掛けた。

要するに本書は著者が豊富なる學識を以て物理學全般に亘り縦横に解説したるもの此の點に於て全く類書を見ないので中等學校物理教授者諸子の絶好の參考書であり高等學校専門學校學生諸子の無二の參考書であり中等學校生徒諸子の自修復習の此の上もない指南書である。

至文堂編輯部編

代數問題集

學習參考用・教科書併用

定 價	{	初學年用	金	七	十	錢
		上級用	金	八	十	錢
		送料各	金	八	錢	

凡そ代數學に上達せんと思へば，數多くの問題に當りその解法に熟達せねばならぬ。それには良き問題集を選擇して教科書と併用せねばならぬ。又如何に多くの問題を集めても，ただ雜然と採録したのでは，徒らに勞多くして所期の結果は得られない。

本問題集は中等學校數學教授要目に準據して編纂せられたものであつて，悉く模範的問題を輯録し，意をその配列に用ひ，易より難に入り，初學の者をも一度本書を手にはせば順次に導きて代數學の奥義に達せしめることが出来る。

貴重なる精力と時間とを徒費することなく，最も速かに上達せしめることは本書の主眼とする所である。これまことに本書が刊行早々教育界に於て多大の好評を博し，續々として諸中等學校に教科書併用として採用せられ，又學生諸君からは，最新理想的なる代表的學習參考用問題集として歡迎せられつゝある所以である。實に本書は代數學難に悩める學生諸君竝に高等學校専門諸學校受験生諸君にとつて無二の良參考書である。

國史研究叢書第一編

東京帝國大學助教 文學博士 平泉澄先生著

忽三版

中世に於ける精神生活

定價金四圓五拾錢
送料 金拾八錢

本書は從來殆ど閑却せられたる中世に於ける精神生活を主題とし、之を從横に解剖し、前人未踏の境地を開拓し、新たな組織を與へんと試みたものである。

一 先づ上代に於ける教育を検討して其本質を究め、之が中世に入つて如何に變遷したるかを見、以て上代より受けたる精神的遺産を明かにすると共に、王朝の衰微によつて萌した上代憧憬の心境が如何に強烈に各方面に現れてゐるかを見た。

一 中世に於ける上代憧憬の念はやがて古典の研究を誘起した、よつて著者は具にその事情を明かにすると共に、古典の研究態度より引いて、強烈なる宗教意識の問題を誘導し、遂に上代の文學的價值は、中世に於いて全く宗教的價值に置き換へられるに至つた事情を明かにすると共に、此の宗教的意識は主として寺院の活動に依つて醸成せられた事情を明かにした。

一 中世に於ける教育の源泉たる寺院の活動を説き、其の時代相との關係を探討する寺院教育の本體を見、從來唯一の教育機關と考へられてゐた金澤文庫、足利學校を解剖して、其の意見を打破し、兩者とも殆ど教育に關係のないことを明快に指摘した。

一 中世生活の一大主流をなす憂鬱の本質を解剖して深刻なる時代形相を詳細に説き、之と共に、之が上代末期の煩悶と、更に陰陽道、宿禰道並に佛教思想に因由する事情を闡明した。

一 更に中世に於て擡頭した新勢力たる武士的精神の特性を論じ、其の思想的根柢が禪宗によつて與へられたことを説き、やがて宋學が之に代つた所以を明かにした。

著者は國史學界に重きをなせる新進の大家、其の透徹した歴史觀と最も新しい研究法とを具體化して錯雜極りなき中世精神生活の種々相を捉へ、よく其の闇黒を照破し、遺憾なく其の全面容を展開してゐる。蓋し本書に依つて歴史家は其の研究の新生面を發見し、思想家は中世に於ける文化的價值を見出すであらう。

國史研究叢書第二編

東京帝國大學助教 文學博士 平泉澄先生著

忽三版

中世に於ける社寺と社會の關係

定價金參圓五拾錢
送料 金拾四錢

我が國中世期は從來専ら武家時代として取扱はれ、その社會生活に極めて密接なる關係を有し、而も極めて重要な地位を占有する神社並に寺院に就ての研究は殆ど閑却せられてゐた。本書は中世史に於けるこの大缺陷を補はんが爲に専ら當時の社寺と社會生活との關係を研究したもので、之に依つて我が中世期は始めてその眞實相を闡明することが出来た。

一 アジール(寺入り)を中心として社會に於ける寺院の地位を論究した。先づ四歐諸國のアジールの歴史を述べ我が國上代に於て殆ど見ないアジールが中世に入り漸く諸寺の間に發達し遂には重罪犯人なり雖も一度寺門を入れば忽ち追跡を免れ、寺院は殆ど治外法權を有し公家武家と鼎立したる狀を説述した。

一 經濟生活を中心とし社寺と社會との關係を究明した。市町村の發達商業金融等の狀態を述べ親子無盡爲替等の發達が社寺に負ふ所多きを説き關所御師等に就て社寺と交通との關係に及び更に西洋のギルドに比すべき座の問題を論じた。

一 精神生活の方面に於て教育を主とし社寺との關係を明かにした。即ち幾多の新發見により中世の往來物約三十種をとつて之を縱横に解剖し子弟は悉く寺院に學び教科書は多く僧侶の手に成つて社寺が教育の中心をなした事情を論じた。

一 かやうに犯し難き特權を有し社會生活の中心をなした社寺が中世の終近世の始に於て俄然勢力を失墜したに至つた狀勢を説き内外にその原因を究めて世運の推移を明瞭にした。

著者の前者『中世に於ける精神生活』は一度出て學界に異常なるセンセーションを惹起し思想界讀書界に大なる波紋を描いた。少壯氣鋭ける著者は學界注目し焦點に立つて又本書をなす。著者が大學院に於ける研究の結果を要約し審査の結果學界に授けられ著者の中世史研究の第一歩として未だ曾て知られぬ幾多の重要な史實を驅使し以前人未到の境地に參入し國史に一新生面を開いた。實に本書は少壯敢爲なる著者の生新なる史眼と正確精實而も自由奔放なる態度を以て書かれしもの、これ從來の史書に絶えて見ざる所である。

國史研究叢書第三編

九州帝國大學助教授 竹岡勝也先生著

定價金參圓五拾錢
送料金拾四錢

新刊 近世史の發展と國學者の運動

近世に於ける國學者の地位並に運動に關し個々の問題は研究の對照とし、かなり重要視せられてゐるにも拘らず其が近世史の上に如何なる意義を有し如何なる影響を及ぼしてゐるかといふ問題は殆んど閑却せられてゐる。本書はこの大缺陷を補はんがために國學者の運動を主題とし之を縱横に論議し極めて内面本質に立入り全く新天地を開拓したものである。

一 先づ國學者の運動を個人の問題として觀ず、之を全體として取り扱ひ、其運動が如何に歴史の發展に與つてゐるかを觀じた。

一 殊に國學者の運動は國史に於けるルネッサンスとも云はるべき運動の最も典型的なるものとして、即ち中世に對する近世の特質を決定するものであり、同時に上代が如何なる形に於て近世に誕生してゐるかを明かにするものとして取扱つた。

一 かくて國學者の運動は當時の國民意識を喚び起しよく其精神生活に參應して始めて永遠の歴史に關與する事を得た趣を明かにした。

本書は實にかくの如き新見地に立つて國學者の運動を取扱ひ、その運動を串貫して擧げてゐる中心思潮を明かにしたもので寧ろ日本文化史更に日本精神史ともいふべきである。所謂宗教史又は文學史と稱するものゝ範疇を脱して新に精神生活の内面に立入り一切の問題を一貫した一つの運動に歸し、此の運動を辿ることに依つて近世の歴史を展開せしめ遂に明治維新の由つて來る所を明かにしたものである。實に本書は歴史の最も新しい研究法によつてなつたもので、歴史家はいふまでもなく一般國文學研究者にとつても必讀すべき好著である。

國史研究叢書第四編

東京帝國大學國史研究室 坂本太郎先生著

定價金貳圓五拾錢
送料金十 四 錢

新刊 上代驛制の研究

交通の問題が一般社會の進歩、文化の發達に關與する所が多くあらゆる部門の歴史の理解に缺くべからざる基礎知識を供給するのである。我が上代史並に上代文化の考察に於ても交通上の研究が極めて重要な地位を占めてゐることはいふまでもない。然るにこの種の研究は從來殆ど閑却せられてゐた憾がある。著者は日本交通史の研究に従事すること多年、この間に於ける缺陷を補はんがためにその研究を以て問はんとするのである。

一 驛制の意義と起原とを廣く諸外國の例に就て論じ併せて我が國に於けるその創設に就て考察した。

一 上代に於ける驛を設備と運用とに分ち、更にこれ等を制度と實際との二方面より検討した。制度の研究では驛家の組織を論じて驛務に携はる人民の苦惱を察し、驛の位置を考へては驛と驛との關係に新見解を施し、水驛の性質を推察して交通上の意義を論じ、實際の方面に於て行幸行啓の跡を察して交通上の意義を論じ、驛使、傳使、給食馬使の三種の官使に就て透徹せる解釋を施し、その他貨物の運搬、役夫の往來、庶人の旅状状態などを考察し、就中驛傳の區別に關する見解は古來の疑問に前人未發の斷案を下し貨物の運搬と驛家との關係などに通説の缺陷を正さんとした。

一 最後に驛制が上代末期に如何に衰へ崩れたるかを觀察し、官營官設の驛家が私營私設の宿營業に變化する過程を詳説した。

著者は最近東大國史學科が生んだ秀才である。現時の混沌枯涸せる國史學界に清新の氣を吐くものゝ、近代の理智に加ふるに自由奔放にして史學に正確清實なる史眼を以て、國史學上の一大空虛を捉へ縱横に考察論評して餘蘊なからしめた。史學專門家にもとより敬へ一般讀書子の清鑒を俟つ。

東京帝國大學助教 文學博士 平泉澄先生著

我が歴史觀

 定價金 參圓四拾錢
 送料 金拾四錢

本書は著者の過去十年間に於ける國史の研究論文十三篇を收録したるもの、凡て是れ前人未發の新説で何れも學界を驚倒せしめたものである。

本書の巻頭卷局を飾る「我が歴史觀」並に「歴史に於ける實と眞」とは著者の史學に關する高邁なる見識を露するもので、歴史研究に一新旗幟を樹して史學の正しき歸趨を明かにしたるもので、著者の面目躍如たるものがある。更に其史實の研究に至つては透徹せる歴史觀と犀利なる眼光とは紙背に徹せざんば止まなかつた。其の日光東照宮の史實を説いては寛永の大造作の事情を仔細に究明して舊説を悉く論破し前後十三年の長年月を費したりといふ通説を覆して僅々十七ヶ月にして成れるの真相を昭然したるが如き、徳川家康の遺金と研究しては希觀の史料を尾州家並に久能山に得て複雑極りなき史實を明快に組織だて經濟的方面より家康秀忠家光の性格の特質を鮮かに描出したるが如き、又史上に湮滅せる五辻宮を研究しては守其親王の御事蹟を隠れたる斷簡零墨の間に辿り建武中興前後に於ける小説よりも奇なる波瀾重疊の御生涯を傳して殆ど奇蹟的に成功したるが如き全く國史界獨歩の觀がある。そして此等三篇は著者が學位を得たる參考論文である。

其の他源賴朝が朝廷の年號を用ひざりし事情を闡明したるが如き、經濟史上最も複雑にして研究に困難なる「座」の問題を提げて諸家と論陣を張つたが如き、又龜山上皇殉國の御新願に關し國史界に議論沸騰したる際に嶄新なる心理的研究に依りよく其の真相を明かにしたるが如き、守護地頭に就て諸家の議論紛糾したる際に其等の學說の根本的誤謬を指摘して別に透徹せる新見解を出したるが如き、本書に收むる諸論文は何れも國史界の第一線に立つものである。全卷はれ金玉の文字苟も歴々に志す者の必讀の好著である。

東京帝國大學文學部講師 山中謙二先生著

西洋史概説

 定價金 四圓
 送料 金拾四錢

一體史學究極の目的は個々の史實を研究して其真相を究めるといふよりも、更に進んでその個々の史實が人類生活に如何なる意義を有し、それが如何に發展して現代生活を創致したかを明かにする所に存する。本書は實に我が史學界に重きをなす著者が、この史學本來の立場に立つて西洋史を概観し一系の下に組織立てた新しい試みて、其の透徹せる歴史觀と豊富なる思想的素養と最も新しい研究法とによつてよく其真相を究めてゐる。

本書は西洋史の知識に正しい系統を與へ人類生活に意義あらしめることを主眼とした。即ち古代美術、文藝復興、産業革命、世界大戦、古代希臘の諸聖、シーザー、那翁、沙翁、マルクス其他凡ての史實を提へて史上に如何なる意義を有し如何なる役割を果し又將來に如何なる影響を及ぼすかを説いて之を嚴正に批判した。而して著者の犀利なる史眼は此等史實の裡に潜む思想生活の真相を捉へ其變遷推移の狀を大觀し人類生活發展の真相を描出した。

一更に過去の史實によつて現代の由つて來つた趣を明確にした。即ち古代に就ては文化の變遷推移の跡を辿り、近世に就ては政治社會の方面に重きを置き、かくて現代文明發達の経路を明かにし、以て將來の向ふべき所に資せんとした。

誠に本書は人類經驗の總記録であり、卓越せる文化史であつて特に現代生活に密接なる交渉を有する點に於て萬人必讀の名著である。實に本書によつて歴史家は其研究の新生面を發見し、一般識者は益々さる興味を覺えながら現代世界の犬勢を知ると共に、現代社會生活に對する正しい理解を理解を得ることが出来る。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著 定價二圓七十錢

倫理學概論

本書は倫理哲學を以て我が學界に重きをなせる著者が、その該博なる知識を以て倫理學上の諸問題を最も廣汎に亘り極めて公平に取扱つたものである。本書の生命とする所は各種の倫理學說を最も正確に解説して、これを正當に批判すると同時に、著者獨自の意見を以て串貫するを忘れなかつたことである。更に本書の主眼とする所は、その蘊蓄を傾倒する底のものでなくて、寧ろ倫理學の入門書たらしめんとしたことである。随つてその解説に於ても用文に於ても平明を旨とし何人と雖も一讀直ちにその要領を會得せしむることに心を用ひた。これによつて讀者は自己の反省と實踐とに資すると共に、進んでは人生の哲學的思索の諸問題に對する金鑰を把握することが出来るであらう。實に本書は邦人の手になれる殆んど唯一の倫理學概論とも云ふべく、思想問題の喧しい時に於てその根本的善導法を標置する絶好の参考である。更に本書は専門學校の倫理學教科書としても極めて適當なものである。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著 定價三圓

經驗派の哲學

現代は哲學の時代である。實に哲學は人生の深化であり眞理の殿堂である。眞の自由と解放と遠觀とは専ら哲學的思索によつてのみ得られる。惟ふに現代に於ける一切の思想問題社會問題乃至教育問題は今やその根本よりの解決を要望してゐる哲學的思索は此等諸問題の解決に對する唯一の金鑰である。本書に收むる所は現今世界を風靡しつつある英米の經驗派の哲學を主とし加ふるに佛のベルグソンの哲學を以てした。實にこの經驗學派の哲學は獨逸派の哲學と相對立して哲學の分野を畫した一大潮流である。而も我學界に於て看過されて居る一面である。著者は我が國に於ける經驗學派の第一人者その周匝にして徹底せる解説論明はよくこの學派の本づく眞理觀の特質と根底とを指摘しかねて人生生活の原則を闡明してゐる。是れやがて哲學的思索の全野に亘つて理解を助け一道の光明を與へたものである。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著

定價二圓八十錢
送料十二錢

増訂第五版

思想の人生

本書は著者が人生の高處に立つて廣くその思想生活の各般に亘り内面的に極めて深刻に思索し批判したものである。本書の所論は文化の本質より人生の法則に關する一般的理論を初め更に進んで現代の所謂思想問題より實際生活にまで立入つてゐる。實に歐洲大戰後の改造は畢竟精神文明の提唱にある、精神文明の普及によつて人生を高め人生を價値づけんとするに他ならぬ。而して精神文明の要素は一にかかつて思索に存する。この思索によつて思想を深めその思想によつて自らも生き社會をも導く是れ文化生活の根本義である。然らば如何なる思想によつて自らも生き社會をも導くべきか、如何なる思索が人生を最も意義あらしめるか、思索が如何に人間生活に重要なるか、是れ本書が提唱せんとする大眼目である。今や時代は大動搖より小動搖に破壊より建設に、衝動化より合理化に移り進まんとし、人々はその心に目醒めて人生の根底より思索し深く新に改造の道を求めんとしてゐる。此の時に當り哲學的思索を以て我が學界に重きをなせる著者の該博なる知識を傾倒したる言説は快刀亂麻よく人生の新生活を開拓して人心の歸趨する所を明示してゐる。實に本書は精神文明の基礎を決定するもので、同時に讀者の思索生活をより深く根本的に普導する絶好の著書である。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著

定價三圓五十錢
送料十二錢

忽第五版

新思想の批判と主張

今や吾が思想界は一大危機に際せり、上下三千年に亘りて連綿として變らざりし吾が國民思想は歐洲戰後の外來思想に影響せられて今や全く混亂の状態にあり、此時に於て當になすべきは吾が國民思想と外來思想との調和にあり新思想と舊思想との融合にあり。此の兩思想を融和するには先づ國民思想を闡明し、國民思想と外來思想との長短利不利を考察し批判して新道德を樹立せざる可らず、新思想の批判と新道德の樹立はれ實に刻下の急務にして識者の思ひを澄むる所著者亦茲に見る所ありて本書を公にす。内容は第一自由解放社會連帶、第二國家人格論、第三現代と道德的改造、第四自發教育と自發道德の四項目より成り更に二十二の細目に分る著者大島文學士が斯界の重鎮たる事は世既に定評あり。本書が新時代の無二の經典たる事言を俟たず。

東京帝國大學助教 増田惟茂先生著

定價金五圓
送料金拾八錢

實驗心理學序說前編

基礎問題の理論的及び實驗的研究

今や世界の心理學は全く劃時代的新機運に際會し、其根柢から書改められんとする。本書はこの新機運に乗じて從來の何れの學說にも捉はれることなく、著者獨特の思索と實驗とを基礎として其の蘊蓄を傾倒し心理學の眞面目を闡明すると共に今後の新進路を示してゐる。

一 本書は從來の心理學書に見るが如き根據の不安定なる實驗やテストに據らずして、堅實なる理論で基礎づけたがら心理學の實驗を懇篤に詳述した。

一 本書は一面に於て哲學書である。單なる思索や淺薄なる經驗哲學に據らずして、その實驗的研究を徹底せしめながら、人生に對する深い同情と眞理に對する他くことなき熱求とに驅られながら著者獨特の哲學觀を論述した。

一 本書は各章の排列に獨自の新機軸を出し、説明頗る懇切初學者に對しては最も分り易く一讀以て諸家の説を知り世界の心理學界の趨勢に通じ心理學の正しい學び方を示し、尙又一層立入つて研究せんとする専門家に對しては、どこまでも其の好伴侶たらんことを期した。

著者は我國心理學界に於ける新進の大家、本書は實に著者が十數年の研究の結晶であつて、其所説は實に我が心理學界の一大權威であるばかりでなく、正に世界の心理學界に對して一大貢獻をなすものである。若し夫れ英佛獨の何れかの國語で書かれたならば世界の心理學界に於ても亦廣く且廣面に讀まべき世界的名著である。苟も新心理學の眞諦を解し心理學の新機運を知らんとする人は先づ本書を見られよ。

前警察講習所長 松井茂先生序 堀内文吉先生著

警察心理學

定價金壹圓五拾錢
送料 金八錢

最近心理學應用の方面は著しく發達し、曰く教育心理學、曰く商店心理學、曰く購買心理學、曰く犯罪心理學等々と無限に廣大しつゝある。しかも獨り警察方面に對する専門的研究の闕却せられつゝあるの傾向は、心理學の應用が現代社會生活に善惡共に重大なる影響を及ぼしつゝあるに鑑みて眞に遺憾である。本書はこの缺陥を補足し、警察官必須の心理學を速に修得せしめんが爲、特に警察官教養に經驗深き著者が多年の蘊蓄を傾倒して成れるもの。特高警察、高等警察、刑事警察等は皆一般心理學は勿論、特殊心理學の力を緊要とする。就中本能問題、感情問題、群衆心理、犯罪心理等は何れも皆警察の重要問題である。著者は本書に於て、一般心理學と此等警察官の爲の特殊心理學との關係を詳述し、隨所に犯罪の實例を引證して其應用上に遺憾なきを期した。而も用文は平明にして、素養なき者も一讀先づ心理學の一般に通じ、而して後、警察心理學としての應用方面に達し得るやう懇切に記述した。誠に本書は警察心理學書として最初に成れる且つ眞に完備せる名著。實に警察官各自必備の寶典であり、同時に警察に關係を有ち又は興味を持つ一般社會人にとりても亦絶好の參考書である。

東京帝國大學講師 大島正徳先生著

廿五版
公民道徳洋裝定價一圓
和裝定價六十錢
送料各六錢

我が國民の國體觀念及び社會に關する知識徳操等の教養は唯小學教育のみを以て満足すべきものにあらず殊に我が一般國民思想の涵養等に就きては寧ろ小學卒業後の青年時代即ち中等學校實業補習學校等に於いて最も大切な事は識者の齊しく唱導する所である。

本書は多年國民道徳の改造を提唱し來れる大島文學士が時勢に鑑み新時代に適せる新道徳を説きて國民思想の善導に努められたるもの。本書が從來の修身道徳書と趣を異にする點は

第一 新時代の青年の處世の方針を提示したる事

第二 着眼に於て所説に於て新局面を開拓したる事

第三 人格觀念を明にし社會關係を重視したる事

等にして新人としての著者の風格と時代に先んじたる著者の識見とは卷中に躍如としてゐる。中等學校並に實業補習學校等の修身教科書として最善最良のものたるは勿論又一般青年の修養上の讀物として誠に無二の良書である。

東京帝國大學講師 大島正徳先生著

最新刊
自治公民の根本義定價金貳圓五拾錢
送料 金拾錢

現代は立憲自治の制度の下に生きる時代である。而して自治公民の精神的自覺に對する要望は今日より大なるものはない。近頃頼に公民教育の必要が唱説せられ自治訓練の急務が叫ばれ立憲思想に關する社會教化が努められるに至つたのは喜ぶべき現象である。而も現時の實情よりすると更に一層深き根柢より之を基礎づけ更に徹底的に之を國民意識の内部に植付けるにあらざれば個人並に自治團體乃至國民の獨立的人格としての生長發展は極めて覺えないものがある。本書はこゝに見る所があり自治公民の法制的解釋の上に出て専ら精神的思想的解釋を施してその根本義を明かにした。著者は哲學倫理を以て我が學界に重きをなせる大家その平常の學者的思索を基礎とし最近東京市教育局長として實質的方面的體驗を以て先づ自治の本義を説いて自修自律自考に及び公民の意識を論じて社會我の自覺を究め更に人生哲學の奥義に立つて現代社會の世相を解剖痛論してその缺陷を指摘すると共にその進路を明示し憂國慨世の熱誠は紙幅に溢れ世人の猛省を促すこと極めて切なるものがある。而も透徹せる理論を説くに専ら平明を旨とし何人と雖も一讀直にその要領を會得せしめることに意を用ひた。實に本書は自治立憲制の下に普選の現代に國民指導の最大幹線を描出したるもの。萬人必讀の自治公民讀本である。

駒澤大學長 文學博士 忽滑谷快天師著

三版

無盡藏

定價 金壹圓七拾錢 送料 金八錢

人生は畢竟無である、無一物である。無なるが故に一切である、無一物なるが故に無盡藏である。社會百般の事象は無と觀する事に依つて解決される。無の前には不滿もなく煩悶もない。凡てを無と觀すれば其所に大自在が得られる。大自在である。故に一切を包含する。即ち無盡藏である修養の極致、處世の要諦此の外に出でぬ本書は禪の見地よりして這般の大趣意を提唱したるもの、思想混亂の現代社會に對する無二の指南車である著者忽滑谷博士は禪門第一流の耆宿として世に定評あり。本書の内容が如何に豊にして趣味に富めるかは茲に贅言するを須ひぬ。

駒澤大學長 文學博士 忽滑谷快天師著

再版

禪の理想と新人生の曙光

定價 金壹圓四拾錢 送料 金八錢

禪は人生の極致である理想である。禪を根柢とせざる人生は無意義であり空虚である。意義ある生活を營まんとする人、充實せる人生に活きんとする人は。須ら、禪を修得せねばならぬ。

禪は實生活を離れて存するものではない。一舉手一投足が禪である。行住坐臥が禪である。尋常茶飯が禪である。然るに世間の多くの人は禪は高遠の哲理であるかの如く考へて居る。此謬見を破する爲めに禪の見地よりして修養の工夫を説き、人生の目的を論じ、現代社會の缺陷を指摘し、道德を談じ、家庭を語り、以て禪の理想を顯示し新人生の曙光を明示したものが本書である。著者忽滑谷博士は禪門第一流の耆宿。本書は即ち師が多年の蘊蓄を傾けたる會心の快著である。

禪を修せんとする人。禪を味はんとする人。禪を知らんとする人。須らく本書に就て冷暖を自知せられよ。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第一篇
東京帝國大學助教授 文學士 久松潜一先生著

忽七版 萬葉集の新研究 定價金參圓五拾錢 送料金拾四錢

從來の萬葉研究の多くは殆どその註釋にとどまつてゐる。本書はこの點にあきたらずして、萬葉集に造詣深い著者が、從來の成説に提はれず、全く自由の高處に立つて深くその内容本質に立ち入り、その考察に何等の拘束をも感ぜざることなく、専ら批評的態度をとつて根本的に研究した多年の成果を一系列の下に纏めたものである。

一 全體として人と作品の間を流れる抒情的精神を見ようとしたこと

一 人麿、赤人、憶良、旅人、家持、蟲麿等の萬葉集の主なる歌人やまた女歌人や、民衆歌人を對象として、萬葉集の詩形、神人の思想、古代の傳説、上代生活等の主なる問題を考察する態度をとつたこと。

一 萬葉集の歴史的意義を見るために、配紀の歌を横観して萬葉集を産出する過程を眺め、萬葉派の歌人を説いて萬葉集の流れを見ようとしたこと。

一 萬葉集の成立を説き、その研究の發達をも眺めて、基礎的研究にもふれてゐること。

本書はこれ等の新見地に立つ前代未言の考説である。實に本書によつて萬葉集の研究は確かに一新生面を開拓したものである。萬葉研究者上代文學に興味を有する人にはいふまでもなく、苟くもこの國民的歌集の眞相を知らんとする人々の爲に無二の伴侶である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第二篇
第六高等學校教授 文學士 麻生磯次先生著

忽五版 近世生活と國文學 定價金參圓五拾錢 送料金拾四錢

從來の特選階級の文學は徳川期に入つて全く一般民衆の手中に渡つた。伸ぶべくして久しく伸び得なかつた徳川期は、一たび度内變の手より脱するや、然として自ら民衆の氣慨は、この生々とした實生活の姿態と、やがて徳川の文學を立派に本質として深く内面本質に立入つて、如實に見んとして考へ、同時に生活の諸相を通過して文學の現象の特質を見ようとした。浮世草紙、浮世草紙、酒落本等、滑稽本等を展開の姿の下に考へ、これが世相との交渉を見ようとした。

一 武士と茶町人生活、遊里生活、俳諧生活、諧謔生活等の諸相を眺め、その特質を考へた。

一 武士と茶町人生活、遊里生活、俳諧生活、諧謔生活等の諸相を眺め、その特質を考へた。一階級的意識を考へて、就て述べた。

著者は新進學士、その多年の研究によつて複雑多様な徳川文學の中心基調をなす種々相を捉へて、前代未言の境地を開拓し、民衆生活の全野を展開してゐる。徳川時代の文學、世相の特質を知らんとする人には無二の伴侶であり、更に現代の生活、當來の文藝に興味を有する人々には多大の暗示を含んでゐる。

目 次
第一章 總論 一、平民文學と世相 二、形式と機軸 三、施政の要
第二章 武士と町人生活 一、武士の生活 二、武士の地位 三、町人生活
第三章 遊里中心の生活 一、遊里の盛衰 二、遊里の生活 三、遊里の機軸
第四章 俳諧生活 一、俳諧の盛衰 二、俳諧の生活 三、俳諧の機軸
第五章 滑稽生活 一、滑稽の盛衰 二、滑稽の生活 三、滑稽の機軸
第六章 酒落生活 一、酒落の盛衰 二、酒落の生活 三、酒落の機軸
第七章 浮世草紙生活 一、浮世草紙の盛衰 二、浮世草紙の生活 三、浮世草紙の機軸
第八章 滑稽本生活 一、滑稽本の盛衰 二、滑稽本の生活 三、滑稽本の機軸
第九章 諧謔生活 一、諧謔の盛衰 二、諧謔の生活 三、諧謔の機軸
第十章 生活類聚 一、生活類聚の盛衰 二、生活類聚の生活 三、生活類聚の機軸

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第三篇
大阪女子専門學校教授 文學士 兒山信一先生著

忽四版

日本詩歌の體系

定價金參圓五拾錢
送料金拾四錢

和歌、俳句、俗曲、民謡などの日本詩歌は國文學史上の花である。そしてこれ等はその量に於て各時代を通じて極めて重要な地位を占めてゐる。實際國文學の研究はその大半をこれ等詩歌の研究に俟つべきものであらう。しかも従來の研究は單なるその部分的研究の外に出でず表面皮相の研究に止つてゐる。本書はこの點に倣らずして著者が多年の蘊蓄を傾倒し日本詩歌の全野に亘り極めて複雑多様な内面本質に立入つてこれを組織立て體系つけたものである。

一和歌、連俳より唱歌、俗曲、民謡等に至るまであらゆる種類の詩歌を対象とし、説經、祭文、鉢叩、讚美歌、歌劇などをも一々網羅した。

一日本詩歌の歴史的開展を跡づけたものではあるが、單なる表面に表はれた歴史的事實よりも寧ろその根柢に横はる存在理由を重んじながらその發展を系統的に敘述した。即ち日本詩歌が如何にして發生し分化したか、又それが如何にして發達興隆し何か故に衰滅萎靡したか、更に將來如何に發展しゆくべきか等の問題を解決しようとした。これによつて日本詩歌の發生、發達、變遷、衰滅の根本理由を闡明した。

一詩歌そのものに對する正しい理解を有し確實な根據の上に立ち科學的方法によつて整理した。

日本詩歌は國民と共に存し國民と共に榮えるものである。本書はその歴史的根據の上に立つて日本詩歌の新生面を開展すると共に更に新しい問題を提唱したものである。日本詩歌の研究者は勿論一般國文學愛好者に絶好の著書であるばかりでなく苟くも廣く詩歌に思ひを寄せ興味を有する人々には多次の暗示を寓すものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第四編
文學士 手塚昇先生著

忽三版

源氏物語の新研究

定價金參圓參拾錢
送料金拾四錢

源氏物語出て、九百餘年、常に國文學上の一異彩であるばかりでなく全世界に於ける最古の小説の一として、しかもあの時代に人情展開の過程を寫した物語として、その組織に於てその敘述に於てかくまでに完備したものを見たのは、正に世界文壇の一大驚異である。吾々は祖先の中にかゝる偉大な文學を有することを誇とし又心強く思ふものである。かくして源氏物語一度出て國文學の主流は全くその跡を追つて展開したとも見られる。されば源氏物語の研究は古くより行はれ現に年々殆ど大同小異の註釋書が續々刊行されてゐるのであるが、何れも先人の舊説を繼承盡守したるもののみにて、その評論考證に關する總論的方面の研究に至つては見るべきものが甚だ少ない。著者は新進寫學の士とくに見る所あり多年研究の結果遂に本書をなすに至つた。實に本書は過去五百年の源氏物語に關する評論考證の研究史を背景とし、而も創作に志す著者が當然の歸結として作家的見地より深く原作者の創作心理に立入つて研究評論したもので、過去の成說に提はれず幾多新説を出した源氏物語研究史の最前線に立つものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第五編

飯路高等學校教授 文學士 片岡良一先生著

忽三井原西鶴

定價金參圓五拾錢
送料拾四錢

今若し元祿時代を知らうと思ふならば先づ西鶴の描いた所を見るがよい。實に西鶴は元祿時代の先頭に立つて、これを最も明白に最も大膽に、最も具體的に最も鋭く描いてゐるので、此の時代の生活の實際と趣味の根柢とを遺憾なく寫してゐる。一日に二萬三千五百句の放れ業に世人を驚倒せしめたのも西鶴である。一代の文人と俗流者として等しく讃仰の言葉を博したのも西鶴である。こゝに西鶴のはかり知られぬ偉大さと複雑さがある。本書は西鶴の此の偉大さと複雑さとの全面容を見盡さうと企てた。即ち人、俳諧、浮世草子、淨瑠璃などを始め其の他一切の餘技を通じて西鶴の稟質のあらゆる斷面に觸れようとしたものである。西鶴の本體を見究めようとするには、内から其の心境の推移や創作心理に深い探りを入れると共に、外から元祿の時代思潮と時代生活とに觸れる必要がある。そこで時代の環境を明瞭にすることによつて、西鶴の相を鮮明に浮び上らせようと試みた。かくて著者の犀利なる觀察と多年の研究との結果は、本書に於て明かに西鶴の全容を浮生せしめた貌がある。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第六編

東京帝國大學教授 文學士 湯池孝先生著

最新刊 樋口一葉論

定價金參圓五拾錢
送料拾四錢

從來の觀念小説に據らずして新に心理描寫主觀描寫の旗幟を掲げて佳作連出盛名を一時に榮にしたのは樋口一葉である。一葉の文壇に於ける活動は明治二十五年より其二十五歳にして病没するまで僅に四年。其間作る處二十數篇。本書は此等不朽の名作を通して一葉の全容容を知らんとするのである。

一歸納的態度によつて各方面からの探求を綜合し一葉文學の輪廓と内容を新に組織立てることに論斷の主意を置いた。

一一葉文學の背景をなした時代の趨勢特に寫實主義思潮並に其次期への推移に留意し明治文學の中樞と一葉の過度期的文學との交渉を明かにしようとした。

一努めて創作の心理に立入り其實生活から作品への過程消息を明かにしようとした。

一一葉文學の史的價值を闡明すると共に其文學的價值を探り味の文學たることを強調した。

明治文壇に天才一葉を出したことは吾等の誇である。而も一葉に就て見るべき研究のないのは吾等の大なる恥辱である。著者は新文學に就て造詣深い文學の士、殊に一葉を研究すること多年。本書は實に著者が苦心の結果を世に問はんとするもので、當時の文學界の雰囲気並に水準を十分に考察して傳統的先入見を脱し一葉の眞面目を生かしてゐる。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第七編
東京帝國大學國文學研究室 文學士 池田龜鑑先生著

最新刊

宮廷女流日記文學

價金參圓五拾錢
送料 金拾四錢

王朝時代に於ける幾多の閑秀作家の筆になつた日記文學は國文學史上に於て特異の地位を占有するものであり同時に又獨自の文學世界を展開して極めて藝術的價値の高いものである。而も此等に對する研究考察は從來全く闕却せられてゐたのである。本書は茲に見る所あり、此の內面的乃至哲學的といふべき一系列の文藝を主題として正當なる文學的地位を要求し晴明澄微なる批判及び鑑賞を試みて、その眞意義を闡明したものである。

一、本書は著者が過去六年間各地を歴遊し各種の文庫及び諸家に秘藏せらるゝ門外不出の珍籍を涉獵し諸種の異本を精密に比較校合して本文を制定し古註を検討し前人未嘗の新解を施し精細なる索引を作り「宮廷女流日記考」一萬八千枚の原稿を整理し此の驚くべき基礎的作業の上に漸く完成したる批評的鑑賞の考察である。

二、本書は日記文學及びその作者を知的に説明せんとするよりも寧ろ人間的に味得せんとしたものである。從つて王朝女性の寫眞的姿容を外面的に解剖分析したものではなくてその間に現はれたる久遠の女性の輝かしき不朽の光彩を直に凝視したものである。

著者は新進篤學の士最近東大國文學科が生んだ秀才である。現時の國文學界に於ける混沌枯渴せる詮索的論文に倦らずして近代の理知と抒情詩的熱情とを交錯して綴り出した美はしい藝術的評論である。實に本書は日記文學の研究としては我が學界に於ける最初の企であり殆ど唯一の業績であつてその透徹せる判斷と明確なる論究と清澄なる鑑賞とは全く他の企及し得ざる所である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第八編
大西貞治先生著

最新刊

古代純日本思想

定價參圓五拾錢
送料 金拾四錢

本書は古事記並に萬葉集を中心としその他の文獻の助けをかり國初より奈良朝末に至る所謂精神的創造生活時代、國民生活自覺時代、國民生活激動時代に亘り専ら古代日本人の精神生活を對照として純眞な國民思想を研究したものである。即ち古代文藝に見えた純眞な國民思想の本質が外來の儒佛思想によつて如何に影響せられた訓練せられたか、これが奈良朝に入つて如何なる形質をとつたか、更に儒佛思想が國民思想の上に如何なる痕跡を残してゐるか、この間に於ける思想界の狀勢はどうなであつたか。かういふ問題を極めて思想的に内面本質的に説明しようとするのが本書の主眼である。

一、古事記を以て古代日本の哲學と觀じたこと。

一、萬葉集を一般思想界の狀勢から専ら思想的に觀じたこと。

一、古事記に具現せられた國民生活と萬葉集に表現せられた國民思想とが本質的に風々味通するものであると觀じたこと。

從來に於て絶えて見なかつたこれ等の新見地に立ちその内容が寧ろがまゝに深く内面の精神生活の殿堂に參入し著者自身の限りなき要求に應じて自由な觀に自由な考へ新に見出した眞實相を具體的に描き出さうとしたのが本書である。古代の國民思想も現在の要求に應じて新に書き替へられなければならぬ筈である。かくして著者は十餘年研鑽の成果を以て世に問はんとするのである。古代思想は本書に於て初て不變の價値と永遠の著さとを得茲に新生命を以て全く蘇生したかの觀がある。而も之によく思想的體形を與へた所に著者の獨創力の深さと躍れたる世界に浸透して行く力の強さを見出すと共に、國文學研究に一新生面を開きよゝ進むべき道を暗示してゐる。著者は現時國文學界に於て嚆矢せられてゐる少壯有爲の士である。この隠れたる篤學者を世に紹介することを得たのは弊堂の喜びである。諸君先づ本書について見られよ。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第九編
東京女子大學教授 文學士 倉野憲司先生著

最新刊

古事記の新研究

定價金三圓五十錢
送料金 拾四錢

古事記は日本上代に於ける最も重要な文獻であつて、日本文學の源泉として、國民思想の搖籃として又古代の國民生活を活寫したものとて、古代の日本を知る殆ど唯一の寶典である。而も從來の古事記研究は多くその註釋の範圍を出でなかつた。本書は、この點に據らずして深くその内容本質に立入り、全く著者独自の見解によつて根本的に研究論明したものである。

一古事記を上代に於ける民族的敘事文學と觀じ、その成立・内容及び形式に亘つて民族的敘事詩の本質的研究を經とし、言語・神話・宗教・人類・考古・土俗・歴史・民族・心理等の各方面よりの科學的研究を緯としたものであること。
一古事記研究の發達を眺めてその基礎的研究にも觸れたこと。
一古事記の素材をなす神話・傳説及び説話の比較討議を試みたこと。

一古事記に具現せられた上代の國民思想及び國民生活を闡明せんとしたこと。

本書は以上の新見地に立ち著者が多年の蘊蓄を傾倒して複雑多様な古事記の内容本質に立入つて之を組織立て系統づけたもので、明かに古事記研究に一新生面を開拓したもの、その科學的研究を試みた最初のものである。實に本書に於て古事記の眞意義は始めて闡明せられた觀がある。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生著

五版 上方文學と江戸文學

定價金貳圓八拾錢
送料金 拾貳錢

徳川期の文學は國文學中の花である。浪華から江戸へ、元祿から文化文政へ、藝術の花は移り移つてとりどりの色を見せた。近松や西鶴や芭蕉や種彦やその他の所謂戯作者達。淨瑠璃や、淨世草子や、俳諧や洒落本などの所謂俗文學、是等の作者と作物とは吾が徳川期の文學を飾るものであり、同時に國文學中に重きをなすものである。

本書は徳川文學の研究に於いて現代の第一人者たる藤村博士が興味ある題目を提へて元祿江戸の文學を平明に論述したるもの、特權階級の手から民族の手に渡された徳川文學の消息、「粹」と云ひ「通」と稱する當時の町人生活の眞相を知るには絶好の資料である。元祿趣味を愛し、江戸趣味を喜ぶ人の爲めに無二の同伴たることは云ふまでもない。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生編

抄本
日本永代藏

定價 金 八拾錢
送料 金 六錢

抄本
胸算用

定價 金 七拾錢
送料 金 六錢

高等諸學校國語科に用ゐられてゐる古典は固より我が國文學の粹であらう。けれども國文學の大系を知るには他の代表的な著作にも目を通さなければならぬ。新定の教授要目はこれが爲に近松、西鶴、馬琴等の作品をも講讀に適當なる教材として示してゐる。弊堂この度、藤村先生に請うて、國文學中の逸品を選び、教科用書に適するやうに特殊な注意の下に抄録し、編纂し註釋して、順次に出版することとした。「抄本日本永代藏」「胸算用」はその一である。

日本永代藏胸算用は言ふまでもなく、井原西鶴の作で、所謂町人物の代表的なものである。元祿文學の名を聞くものが多い、又近松が作品の一二に接したのも少くないが、西鶴の作品を味讀したものは蓋し稀である。これ一つにはこれまで教授の資料に供せらるゝ機會の少かつた爲であらう。本書は引續き出版する、萬文反古と共にこの機會を多くすることに貢獻し得るものなることを固く信ずる。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生編

最新刊

古今和歌集

定價 金貳圓
送料 金八錢

古今集は歌の王國平安朝に於ける一大歌集であることはいふまでもなく、その後の日本文學は殆どその影響を蒙らないものはない。古今集を見ずして平安朝の歌を知ることは出来ず、古今集を知らずして如何なる日本文學の註釋書も十分に理解することが出来ないであらう。この古今集に就て正しき知識を得る爲めとして先づ正しき古今集を知る必要がある。

現代最も廣く流布せられてゐる古今集は八代集に收められた定家の貞應本である。併しこの貞應本に善き古寫本のあることを知る者は流布本に就き疑惑を播ますには居られない。その上同じ定家本であつても傳來の異なる嘉祿本とこの貞應本との關係、更に定家本と清輔本との異同、最近有名になつた元永本及び同系統に立つ筋切と定家との異同如何などの問題は、大いに研究を要する所である。

本書は以上の問題を前提として編纂せられたもので、貞應本の中最も古き寫本と考へられた頼阿自筆本（宮内省圖書寮所藏）を底本とし、貞應本と姉妹關係にある嘉祿本（東京帝國大學所藏、定家本と先行する俊成本の系統と考へられる傳爲家筆本（靜嘉堂文庫所藏、定家本と從兄弟の關係にある清輔本二本（靜嘉堂文庫所藏）などを以て校合し、更にこれらの諸本に對して異本の位置に立つと考へられる元永本、傳佐理筆の筋切、傳行成筆切、傳俊賴筆の序、傳貫之筆の高野切などをも參照し、各本の間に於ける語句の異同は勿論、歌首の増減などをも一々明瞭に指摘した。且つ本書には適當なる頭註を試み特に古今集中必讀の歌二百首に印を附した。本書は實に以上に舉げた諸書を一系の下に集大成したものであつて一般の愛好者に對しては勿論特殊研究家に取つても至極簡便で有益な編著であり、更に高等諸學校の教科書としても最適のものである。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生編

最新刊

新古今和歌集

定價 金貳圓
送料 金八錢

古今和歌の調の特異なるものを擧げて、萬葉古今・新古今の三つを説いてゐる。この三者は和歌觀に或る固定したものの存した時代、換言すれば、自らの言葉もて自らの詩境を歌へと説いた近世の和歌觀に至るまでは、多少とも常に對立的に思惟されてゐた。この内、萬葉古今の二集に對しては古來許多の研究や註釋を有するけれど、新古今集に就ては其等の存するもの少く、また流布本にもとづく從來の研究は主として辭句の末に止まり、定家の明月記や、家長日記に示された撰者等の異常な努力による勞作であることを、本文に就いて研究し得ることが少なかつた。然るに流布本とは異なる隱岐本の出現は、この新古今集の根本的な研究の上に、新たな光明を放つたものである。

本書は、この隱岐本の一つであつて、宮内省圖書寮藏にかかる鳥丸光榮自筆寫本を底本とし、次のやうな點に注意して編まれたものである。

一、鳥丸本は其の奥書によると定家自筆本、家隆自筆本を參校した古傳本の寫本であつて、其考異その他の點に、研究上極めて貴重なものが存してゐる。本書は其をそのまゝ採記した。従つて、所謂「新古今切つぎ」のあとを如實に見ることも出来るやうになつた。

一、集所載の歌で、萬葉集、古い歌物語、家集、歌合等に出でたるものは、一一これを原本と對校し、其旨を頭註に記した。これは新古今集成立についての研究上に、相當の手がかりともならうと思ふ。

一、頭註には本歌、引歌を主として記した。また流布本との相違點をも、こゝに示した。

最近、三矢・武田・折口 の三氏によつて隱岐本・新古今和歌集の出版があつて本集に關する研究が新しく擡頭して來た時にあたり、底本を異にした本書の出づることも意義あることであらう。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生編

最新刊

清少納言枕草子

定價 金貳圓
送料 金八錢

清少納言の枕草子は、源氏物語と並び稱せらるゝ國文學史上の大作である。しかるにこれが傳本として從來一般に流布した春曙抄系統本は字句章段の錯謬誤脱少からず、本文解釋上甚だ遺憾の點が多かつたが、今回藤村文學博士によつて、枕草子諸本中最も正確なる本文を有する内閣文庫所藏の三卷古寫本が、他の諸本との嚴密なる校合を経て、一世に現れる事になつたのは、學界のため誠に慶賀すべきである。

(一)本書は貴重なる寫本の本文を一々々正確綿密に比較校合し、その異同を列擧して明示した。

(二)本書は從來の誤れる註釋を破り、最も新しく最も正しく、かつ最も精細なる解釋をその頭に加へた。ことに本文校定によつて、前人未言の新説を示し得た。

(三)本書は有職、故實、家風、宮殿、調度、服袴等に亘りて圖解し、全卷を一大斷圖たらしめた。

本書の原本たる三卷本枕草子は、枝直、千蔭、弘賢、高尙、春村等をはじめ、近世諸家の等しく秘して傳寫校合した貴重なる傳本である。敢て諸家の精讀をまつ。

東京帝國大學國文學研究室編輯

清少納言枕草子研究

定價 金壹圓
五拾錢
送料 金參錢

一 清少納言枕草子研究の歴史的考察

悉及愚翁校勘本及び鎌倉古寫本に於ける異本研究

細川幽齋、宮本孝庸、岡西惟中等の異本研究

姉小路齋繼、清原枝賢等の異本研究

枕草子抄と春曙抄との異本研究

季吟以後諸家の異本研究

二 清少納言枕草子の現存異本解説

古版本の性質と系統とその諸傳本

三卷本の性質と系統とその諸傳本

堺本、宸翰本の系統とその諸傳本

抄出本の系統とその諸傳本

三 清少納言枕草子の逸文と關係書目

四 清少納言枕草子の成立及び錯簡に關する假説

東京帝國大學國文學研究室編輯

國語國文學本質研究

定價金貳圓五拾錢
送料金四錢

國語の音聲上の特質	東京帝國大學國文學研究室教授	神時
口語文の起源	東京帝國大學國文學研究室教授	保誠
假名交りの本質	東京帝國大學國文學研究室教授	澤義
假名のつかひ	東京帝國大學國文學研究室教授	勝義
傳説文の起源	東京帝國大學國文學研究室教授	保司
長歌の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	二保
日記紀行文の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	則格
歴史物語の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
歌合の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
古歌の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
軍記物語の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
法語の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
連歌の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
俳諧の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
浮世草子の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
滑稽本の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
狂歌の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
人情本の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
落語の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
新體詩の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
自然主義文學の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
近代文學の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
淨瑠璃の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
歌舞伎の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
酒落本の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	
物語の本質	東京帝國大學國文學研究室教授	

東京帝國大學國文學研究室編輯

日本精神研究

定價金壹圓五拾錢
送料金貳錢

沖融澄靜の味	奈良女子高師教授	岩城準太郎
祖先神と英雄神	水戸高等學校教授	栗原武一郎
新人文主義に就いて	廣島高師教授	齋藤清衛
日本上代人の精神生活	女子大學教授	倉野憲司
古代日本精神の第一義	法政大學教授	小龍之輔
大和魂の故郷「まこと」	東京帝國大學教授	久松潜一
國家的精神の考察	東北帝國大學教授	土居光知
西行に就いて	萬葉集の心	西尾實
國學者の憧憬と自覺	萬葉集の心	佐々木信綱
紀紀に現れた上代の道德思想	日本固有の思想と其研究	次田潤
鎌倉時代に於ける文藝復興と國民精神	鎌倉時代に於ける文藝復興と國民精神	田中義能
		松本彦次郎

東京帝國大學國文學研究室編輯

源氏物語

定價 金貳圓
送料 金三錢

黄昏から黎明まで
紫式部の物語の製作上
及び本質上の主義上
蕉の性格描寫の解剖と
その批判
源氏物語の思想特に節
操觀について
ものゝまぎれに就いて
源氏物語論の考察
主要人物に關する臆説
源氏物語に現はれたる
物の氣に就いて
源氏物語中の引歌
源氏物語の語法二箇條
雲隱否定説
源氏物語の英譯
源氏物語と讀曲
源氏物語の繪卷に就いて
源氏物語に於ける古代
註釋及び研究
源氏物語の古寫本その他
源氏物語研究史の新資料
源氏物語千鳥抄について
古註の集成—紙江入楚
源氏物語研究の初期
源中最秘抄の作者
源氏物語の書誌

奈良女高師教授	岩城準太郎	奈良女高師教授	志田義秀	奈良女高師教授	齋藤清衛	奈良女高師教授	櫻井秀	奈良女高師教授	山口秀	奈良女高師教授	久松潜一	奈良女高師教授	手塚昇	奈良女高師教授	石村貞吉	奈良女高師教授	杉野幸次	奈良女高師教授	野村敏介	奈良女高師教授	高木市之助	奈良女高師教授	佐成謙太郎	奈良女高師教授	藤懸静也	奈良女高師教授	松井簡治	奈良女高師教授	佐々木信綱	奈良女高師教授	橋本進吉	奈良女高師教授	橋本進吉	奈良女高師教授	野村八其	奈良女高師教授	山岸德平	奈良女高師教授	山岸德平	奈良女高師教授	植松安
---------	-------	---------	------	---------	------	---------	-----	---------	-----	---------	------	---------	-----	---------	------	---------	------	---------	------	---------	-------	---------	-------	---------	------	---------	------	---------	-------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	-----

東京帝國大學國文學研究室編輯

軍記物語

定價 金貳圓五拾錢
送料 金六錢

軍記物の本安
軍記物と擬古物語
主従關係とその思想
戰記物語の時代環境につきて
來迎文學の諸相
軍記物にあはれたる
佛數(?)
中世の英雄
鎧の威毛に就て
西教徒の管見に入つた
戰記文
平家物語と時代精神
小督と大原御幸(平語餘録)
平家物語の典據ありと思
はるゝ文につきて
平家物語讀本と典義抄
源平盛衰記に現はれたる
愛徳世間、出世間
保元平治物語の書史學的
一考察
保元平治物語の武人
太平記概説
太平記の語法について
義經傳の淵義としての義經記
曾我物語と義經記
曾我物語につきて

朝鮮大學教授	高木市之助	朝鮮大學教授	志田義秀	朝鮮大學教授	金井嘉佐太郎	朝鮮大學教授	齋藤清衛	朝鮮大學教授	時下米太郎	朝鮮大學教授	久澤泰稔	朝鮮大學教授	早川甚三	朝鮮大學教授	石村貞吉	朝鮮大學教授	新村出	朝鮮大學教授	沼澤龍雄	朝鮮大學教授	島津久基	朝鮮大學教授	御橋應言	朝鮮大學教授	橋本進吉	朝鮮大學教授	後藤丹治	朝鮮大學教授	築土鈴寛	朝鮮大學教授	高木武	朝鮮大學教授	待島清九郎	朝鮮大學教授	野村八其	朝鮮大學教授	小山朝丸	朝鮮大學教授	鳥津久基	朝鮮大學教授	佐成謙太郎	朝鮮大學教授	江沼熙
--------	-------	--------	------	--------	--------	--------	------	--------	-------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	-----	--------	------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	-----	--------	-------	--------	------	--------	------	--------	------	--------	-------	--------	-----

國語國文學の最高權威
國語教育
東京帝國大學國文學研究室編輯

國語と國文學

大正十三年五月創刊

毎月一回發行

特別號は年二回、四月、十月發行し、其他は普通號とす

定價表		普通號		特別號	
全年分	半年分	全年分	半年分	全年分	半年分
八圓	四圓	五圓	二圓五錢	壹圓	四錢
郵稅共	郵稅共	郵稅共	郵稅共	郵稅共	郵稅共

毎號國語國文學界の大家新進學者の研究並に國語教授に關する意見を發表致しますが、尙廣く大方の御投稿を歡迎致します。

東京帝國大學國文學研究室編輯

源氏物語

定價 金貳圓
送料 金三錢

黄忤から黎明まで
紫式部の物語の製作上
及び本質上の主義
蘇の性格描寫の解剖と
その批判
源氏時代の思想特に節
操觀について
ものゝまぎれに就いて
源氏物語論の考察
主要人物に關する臆説
源氏物語に現はれたる
物の氣に就いて
源氏物語中の引歌
源氏物語の語法二箇條
雲隱否定説
源氏物語の英譯
源氏物語と謡曲
源氏物語の繪卷に就いて
源氏物語に於ける古代
註釋及び研究
源氏物語の古寫本その他
源氏物語研究史の新資料
源氏物語千鳥抄について
古註の集成——紙江入楚
源氏物語研究の初期
源中最秘抄の作者
源氏物語の書誌

奈良女高師教授 岩城準太郎
成蹊高師教授 志田義秀
廣島高師教授 齋藤清衛
史料編纂局 櫻井秀
早大教授 山口剛
東帝大助教授 久松潜一
文學士 手塚昇
東京女子大學教授 石村貞吉
國學院大學教授 島野幸次
第一高等學校校長 杉敏
東京高師教授 高木市之郎
朝鮮大學教授 野村八真
學習院教授 佐藤謙也
國學院大學教授 藤懸也
東京高師教授 松井簡治
東帝大講師文學博士 佐々木信綱
東帝大助教授 橋本進吉
東帝大助教授 橋本進吉
東京高師教授 野村八真
東京高師教授 山岸德平
學習院教授 山岸德平
學習院教授 植松安
東帝大助教授 植松安

東京帝國大學國文學研究室編輯

軍記物語

定價 金貳圓五拾錢
送料 金六錢

軍記物の本姿
軍記物と撰古物語
主従關係とその思想
戰記物語の時代環境につきて
來迎文學の諸相
軍記物にあらはれたる
佛敎(?)
中世の英雄
鎧の威毛に就て
戰記物の管見に入つた
西教徒の
平家物語と時代精神
小督と大原御幸(平語餘録)
平家物語の典據ありと思
はるゝ文につきて
平家物語灌頂卷と奥義抄
灌頂卷
平家物語の註釋及研究
源平盛衰記に現はれたる
愛憎世間、出世間
保元平治物語の書史學的
一考察
保元平治物語の武人
太平記概説
太平記の語法につきて
義經傳の源義ととしての義經記
曾我物語と義經記
曾我物語につきて

朝鮮大學教授 高木市之助
東京帝大講師 志田義秀
松本高師教授 金井嘉佐太郎
廣島高師教授 齋藤清衛
文學士 時下米太郎
静岡高師教授 久澤泰稔
文學士 早川甚三
東京女子大學教授 石村貞吉
京都帝大教授 新村出
蒲和高師教授 沼澤龍雄
學士 島津久基
御橋惠言
東京帝大助教授 橋本進吉
東大史料編纂官 後藤丹治
文學士 築土鈴寛
武蔵野高師教授 高木武
東京高師教授 待島清九郎
東京高師教授 野村八真
野村八真
山岸朝九
島津久基
文學士 佐成謙太郎
女子學習院教授 江沼照
文學士 江沼照

國語國文學の最高權威
東京帝國大學國文學研究室編輯

國語と國文學

大正十三年五月創刊

毎月一回發行

毎號國語國文學界の大家新進學者の研究並に國語教授に關する意見を發表致しますが、尙廣く大方の御投稿を歡迎致します。

特別號は年二回、四月、十月發行し、其他は普通號とす

定價表		定額	
普通	別號	壹圓五拾錢	郵稅
半年分	（半別號）	四圓	郵稅
一年分	（年別號）	八圓	郵稅
		共	共